

## 陳旧性陰嚢内血瘤の1例

公立穴水総合病院泌尿器科 (医長: 森山 学)

森 山 学

公立穴水総合病院外科 (院長: 横井克己)

横 井 克 己

金沢医科大学泌尿器科学教室 (主任: 津川龍三教授)

鈴木 孝治, 津川 龍三

金沢医科大学病理部 (主任: 野島孝之教授)

野 島 孝 之

## A CASE OF CHRONIC SCROTAL HEMATOCELE

Manabu MORIYAMA

*From the Department of Urology, Anamizu General Hospital*

Katsumi YOKOI

*From the Department of Surgery, Anamizu General Hospital*

Ryuzo TSUGAWA

*From the Department of Urology, Kanazawa Medical University*

Takayuki NOJIMA

*From the Department of Pathology, Kanazawa Medical University*

We report a case of chronic scrotal hematocele. A 94-year-old man complained of urine retention and a painless mass in the right scrotum. He had no history of trauma at the perineum. Tumor markers such as human chorionic gonadotropin,  $\alpha$  fetoprotein and carcinoembryonic antigen were within normal limits. A transillumination test was negative. A right high orchiectomy was carried out after admission with the diagnosis of suspicion testicular cancer. The extracted mass measured 85×60×75mm and contained old brownish black blood. The right testis was located separately from the mass and had a normal appearance. Microscopic examination revealed depositions of cholesterol crystals characteristic of chronic hematocele.

(Acta Urol. Jpn. 42 : 543-545, 1996)

**Key words:** Chronic scrotal hematocele, Cholesterol granuloma

## 緒 言

陰嚢内における陳旧性血瘤は比較的稀な疾患であり, われわれの調べたかぎりでは自験例を合わせ本邦30例の報告<sup>1)</sup>がみられる。今回われわれは, 術前精巣腫瘍との鑑別が困難であった陳旧性陰嚢内血瘤の1例を経験したので文献的考察を加えて報告する。

## 症 例

患者: 94歳, 男性  
主訴: 尿閉, 右陰嚢内の無痛性腫脹  
家族歴: 特記すべきことなし  
既往歴: 陰嚢部外傷, 精巣上体炎, 尿道炎の既往なし。高血圧に対して数年来内服加療中。  
現病歴: 1995年8月25日尿閉にて近医受診, カテー

テル挿入困難であったので当科へ紹介となった。初診時外来においてもカテーテル挿入時に抵抗があったが16 Fr バルーンカテーテルを挿入留置したところ, 1,100 ml の尿をえた。陰嚢の腫脹に関しては数年前より自覚していたが, 痛みもなくそのまま放置していた。

入院時現症: 体格中等度, 栄養良, 表在リンパ節触知せず。腹部膨満以外には理学的異常所見を認めなかった。右陰嚢内容は超手拳大に腫大し表面平滑で一部骨様の硬い部分を含み, 圧痛, 透光性は示さず, 精巣上体との境界は不明瞭であった。左陰嚢内容は年齢相応の萎縮は認めるが精巣の確認は可能であった。

検査所見: 検尿; 蛋白(±), 糖(-), 潜血(±), 沈渣異常なし, 血算, 血液生化学検査, 腫瘍マーカー, 出血凝固系に特に異常は認めなかった。

超音波所見：右陰囊内容は内部エコーが不均一な像を呈し、高エコーを呈する被膜に被われており右精巣は明確には確認できなかった。以上より右精巣腫瘍を否定できず1995年8月26日右高位精巣摘除術を施行した。

手術所見：腰椎麻酔下で、右鼠径部切開を行い、内鼠径輪の部位で精索を遊離し、これに血管テープをかけて精管および血管束を結紮切断したうえで、陰囊内容を創外に脱出させた。腫瘤と精巣との境界は明瞭であり精巣や周囲への浸潤は認められなかった。腫瘤は一部嚢胞様で骨化を伴う厚い被膜に被われ、内容は黒褐色の乾酪様物質で満たされていた。

病理所見：摘出腫瘤先端部に30×20×20mmの年齢相応の萎縮を示す精巣が認められ、被膜を介して85×60×75mmの凝血塊を内容とする嚢胞が見られる。壁は石灰化、一部は骨化を伴う。凝血は陳旧で、コレステリン析出、異物巨細胞、マクロファージが多数出現し動脈硬化性の aneurysm 様外観を呈している。以上より総鞘膜内に発生した陳旧性陰囊内血瘤と

考えられた。

## 考 察

陰囊血瘤は精巣固有鞘膜腔内血液貯留と定義されている。通常陰囊内の血液貯留は急性の変化として認められることが多い。一方本症例のように慢性の経過をとるものは少なく陳旧性陰囊内血瘤と呼ばれている。われわれの調べたがぎり、本邦では青木ら<sup>1)</sup>により29例報告されており、自験例は30例目である。いずれの場合も陰囊内容の腫大以外に疼痛などの症状を伴わないため羞恥心により受診の機会が遅れることが多く<sup>2,3)</sup>、報告されているものでは陰囊部の腫脹を自覚してから最長23年間経てからの受診もあり<sup>4)</sup>、しかもその症例の主訴は排尿障害であった。実際自験例においても主訴は尿閉であり、診察にいたるまでに陰囊腫脹についての本人からの訴えはまったくなかった。本疾患の発生原因としては外傷性、局所性炎症、新生物、あるいは動脈硬化、糖尿病、などの基礎疾患に基づくものが考えられるが<sup>1)</sup>、実際に基礎疾患の確認があるものは少なく本邦では北浦らが約40年前の陰囊部打撲の確認を記載してあるのみである<sup>5)</sup>

自験例を加えた本邦30例の初診時の年齢の平均は67.5歳で比較的高齢者に多く患側は左が22例、右が8例と左側に多い。患側については青木らは、解剖学的に左精巣静脈が腎静脈に流入していることが関与している可能性を述べている<sup>1)</sup>。罹病期間はほとんどが10年以上経過しており、これは先に述べたとおり受診の機会が遅れるためであると考えられる。

診断に関しては精巣腫瘍などの陰囊内腫瘤との鑑別が最も重要であるが、たとえ腫瘍マーカーの上昇を認めずとも触診において腫瘍を硬く触知し透光性や波動性を認めない場合、鑑別診断するのは非常に困難であると思われる。画像診断学的には、超音波断層法が有用であると考えられており<sup>6-10)</sup>、Schaffer<sup>11)</sup>やCunningham<sup>12)</sup>によると急性の陰囊内出血の場合は内部エコーが不均一となりその後経時的に均一なエコー像に変化するとしている。しかし本邦に散見される長期経過した陰囊内血瘤のエコー像ではいずれも不均一で一定していない。自験例においても確定診断には至らず精巣腫瘍が完全に否定できなかったため高位精巣摘除術を施行した。

## 結 語

嚢胞壁の一部に骨化を伴う陳旧性陰囊内血瘤の1例について報告した。自験例は本邦30例目と考えられた。

## 文 献

- 1) 青木雅信, 石川 晃, 牛山知己, ほか: 慢性に経



Fig. 1. The mass was encapsulated by a fibrous and ossification. The testis was normal.



Fig. 2. Microscopic photograph shows foreign body giant cell and deposition of cholesterol crista.

- 過した陰嚢内血瘤の1例. 泌尿紀要 **41**: 817-819, 1995
- 2) 宮澤克人, 池田龍介, 津川龍三, ほか: 陳旧性陰嚢血瘤の1例. 臨泌 **47**: 786-788, 1993
  - 3) 郷司和男, 蓮沼行人, 高木伸介, ほか: 陳旧性陰嚢血瘤の1例と本邦報告例の臨床的検討. 泌尿紀要 **38**: 1413-1415, 1992
  - 4) 斎藤敏典, 豊田精一, 金藤博行, ほか: 精巣鞘膜に発生したコレステリン肉芽腫. 日泌尿会誌 **80**: 111, 1989
  - 5) 北浦 実, 崎山 仁: 陳旧性陰嚢血瘤の1例. 泌尿器外科 **8**: 819-820, 1995
  - 6) 国枝 学, 山口 聡, 西原正幸, ほか: 巨大陳旧性陰嚢血瘤の1例. 西日泌尿 **55**: 1611-1614, 1993
  - 7) 本間次郎, 足立陽一, 岩淵正之, ほか: 陳旧性陰嚢内血瘤の1例. 西日泌尿 **56**: 1423-1426, 1994
  - 8) 萩原雅彦, 小関清夫, 高岩正至, ほか: 外傷性陳旧性陰嚢血瘤の1例. 西日泌尿 **56**: 458-460, 1993
  - 9) 水谷陽一, 宮川美栄子: 特発性と考えられた陳旧性陰嚢血瘤の1例. 泌尿紀要 **37**: 199-201, 1991
  - 10) 一ノ瀬義雄, 黒川公平, 高橋博朋, ほか: 巨大陳旧性陰嚢血瘤の1例. 臨泌 **46**: 704-706, 1992
  - 11) Schaffer RM: Ultrasonography of scrotal trauma. Urol Radiol **7**: 245-249, 1985
  - 12) Cunningham JJ: Sonographic findings in clinically unsuspected acute and chronic scrotal hematoceles. AJR **140**: 749-752, 1983

(Received on February 8, 1996)

(Accepted on April 8, 1996)